

自閉症・情緒障害特別支援学級担当者専門性向上セミナー

自立活動と各教科等との関連を図り、
交流学級での自己調整の力を高めた実践

鹿島市立明倫小学校
(現：佐賀県教育委員会) 久野 優



自立活動と各教科等の関連を図るための具体的な取組の紹介

かおりさんの場合

しよた先生は、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編に示された流れ図を活用し、自立活動と各教科等の関連を整理しました。その実践について紹介します。

1 実態把握シートを使って各教科等でのよさや課題を洗い出しましょう

実態把握

授業の状況、発達や成績の現状、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等



かおりさん
(小学)

- ・体育では、「やりたくない」と言って苦手な活動に参加しない。特に、初めての活動に対する抵抗感が強い。自分なりにルールが分かるとその部分だけ、参加することがあった。
- ・国語や算数、生活では、集中していない時があり、指示や説明が聞き通ることが多い。
- ・友達と積極的に関わろうとするが、自分の思いを一方的に伝えることがある。

かおりさんと周りの先生が抱えている課題を互いに交換しよう。

自立活動の指導目標、指導内容の考え方については、QRコードからリーフレットへ



2 困難さの背景に基づき、中心的な課題を明確化しましょう

中心的な課題の整理

課題の背景	心理的な不安	人間関係の形成	課題の把握	身体的な動き	コミュニケーション
	学習が集中し続けることが難しい(1)。初めての活動への参加に抵抗を示すことがある(2)。	やりたくない活動があると、座を離れたり、廊下に出たりする(4)。	複雑なルールのある活動に対して、苦手さがある(5)。	ほかのメンバーを使った活動に、対する苦手さがある(3)。	話し手に注意を向け続けることが難しく、指示を聞き通ることがある(2)。言葉で説明することに苦手さがある(2)。

中心的な課題 活動への見通しがもてない状況になると、参加の意欲が低下する。

自立活動の指導目標 活動内容やルールを理解して見通しをもち、苦手な授業に参加する。

中心的な課題を導き出すために、複数の先生で情報を共有しよう。中学後では、各教科担任の先生から多くの情報が集まります。

3 自立活動の指導内容と各教科等の指導の関連を整理しましょう

自立活動と各教科等の指導の関連整理

自立活動の指導と関連を図る各教科等		
各教科等(指導の場)	各教科等での配慮や手立て	自立活動の指導内容(①、②)
体育 (交流学級)	・新しい活動の時は、見通しができるように内容やルールを視覚化して伝える。 ・声をかけながら、質問を引き出していく。	〔指導内容①〕活動前に内容やルールを確認したり、視覚化したりする。
国語・算数 (特別支援学級) 生活 (交流学級)	・授業に参加しているときの気持ちを共有する。 ・がんばりたいことに對して、活動後などにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。	〔指導内容②〕約束やがんばりたいことを決め、感情を視覚化したカードを使って不安を共有し、気持ちの安定を図る。

自立活動と各教科等の指導の関連を図るときには、特別支援学校の先生と交流学級の先生が自立活動の指導目標や指導内容を共有することが大切です。

指導の関連の様子を具体的にみてみましょう！

指導の記録

各教科等の指導の様子

- ・体育の授業中、理由を言わず、「やりたくない」と交流学級の先生に言えて、途中から参加しなくなった。
- ・これを機に体育の授業は、「出ない」と言うようになった。
- ・体育の授業の活動内容やルールが分かって、活動に対して興味しがるようになった。少しずつ、自分から初めての活動に参加する姿が見られた。
- ・どうしてもいいから分からない状況で自分から先生に質問することがあった。

他の教科でも45分間の授業に参加できるようになるために取り組んだ。初めての授業や活動の時は、不安な気持ちが強くなることを察してくれた。

「気持カード」と自分の気持ちを表すカードを作成したことで、不安な気持ちを表現しやすくなった。

授業前に特別支援学校の先生に今日の授業の活動内容を伝え、がんばるポイントを説明した。

付箋に「3つのがんばることを書いた「気持カード」を持って授業に参加した。

「3つのがんばることを」に対して、活動後に「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

「がんばるポイント」をもう一度確認していた。

自立活動の指導の様子

- ・体育の授業について、張り切りを行った。
- ・学習活動や授業内容を視覚化した。
- ・「分からない時は質問する」ことを指導して、質問の機会を増やして学習した。



オリジナルキャラクターの「気持カード」を作り作った。自分の気持ちやがんばりたいことをみんなと共有し、カードを使って伝え合うことで、がんばる気持ちを高めた。



交流学級の先生から聞いた活動内容を使い、その中から自分でがんばりたいことを3つ選んで付箋に書いた「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

「気持カード」を作った。

必要な配慮や手立て

- ・見通しができるように内容やルールを視覚化して伝える。
- ・活動後、すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。



実践の概要

- 前任校での実践です。
- 自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍するAさんを対象にした2年間の取り組みをまとめています。
- Aさん実態から,どのように自立活動や各教科等での支援や配慮を行っていったか。交流学級担任とどのような連携を図ったかについて紹介します。



実践紹介の流れ

- ①Aさんの実態と自立活動の指導計画
- ②自立活動と各教科等との関連における実践
- ③交流学級の先生との連携を深めるための工夫



Aさんの実態

1 実態把握シートを使って各教科等でのよさや課題を洗い出しましょう

実 態 把 握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等



かおりさん
(小2)

- 体育では、「やりたくない」と言って苦手な活動に参加しない。
特に、初めての活動に対する抵抗感が強い。
自分なりにルールが分かるとその部分だけ、参加することがあった。
- 国語や算数、生活では、集中していない時があり、指示や説明を聞き漏らすことが多い。
- 友達と積極的に関わろうとするが、自分の思いを一方向的に伝えることがある。

かおりさんと関
把握している
交換し

自立活動の指導目標
指導内容の考え方につ
QRコードからリーフレット



Aさんの中心的な課題と指導目標

2 困難さの背景に基づき、中心的な課題を明確化しましょう

中心的な課題の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	学習で集中を持続することが難しい(1)。初めての活動への参加に抵抗を示すことがある(2)。	やりたくない活動があると、席を離れたたり、廊下に出たりする(4)。	複雑なルールのある活動に対して、苦手さがある(5)。	はさみやカッターを使った活動に対する苦手さがある(3)。	話し手に注意を向け続けることが難しく、指示を聞き漏らすことがある(2)。言葉で説明することに苦手さがある(2)。

中心的な課題 活動への見通しがもてない状況になると、参加の意欲が低下する。

自立活動の指導目標 活動内容やルールを理解して見通しをもち、苦手な授業に参加する。



Aさんの自立活動の指導内容と各教科等の関連

3

自立活動の指導内容と各教科等の指導の関連を整理しましょう

自立活動と各教科等の指導の関連整理

自立活動の指導と関連を図る各教科等		
各教科等(指導の場)	各教科等での配慮や手立て	自立活動の指導内容(①、②)
体育 (交流学級)	- 新しい活動の時は、見通しがもてるように内容やルールを視覚化して伝える。 - 声をかけながら、質問を引き出していく。	[指導内容①] 活動前に内容やルールを確認したり、視覚化したりする。
国語・算数 (特別支援学級) 生活 (交流学級)	- 授業に参加しているときの気持ちを共有する。 - がんばりたいことに対して、活動後すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。	[指導内容②] 約束やがんばりたいことを決め、感情を視覚化したカードを使って不安を共有し、気持ちの安定を図る。

自立活
指導の関
特別支
交流学級
指導目標
するこ



特別の教科道徳における実践

気持ちを表現することへの課題



「気持ちカード」
の手立て

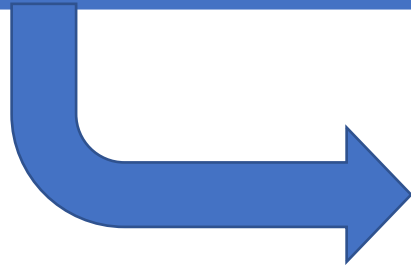


「気持ちカード」
を用いた授業例



自立活動の実践①

気持ちを表現することへの課題



「気持ちカード」を使って表現することへの意欲



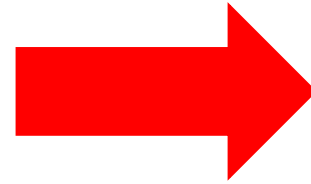
場面に合う
「気持ちカード」
の選択



自立活動の実践①

「気持ちカード」を
使って表現することへの
意欲

「気持ちカード」への
興味・関心



学習意欲につながる
「気持ちカード」の作成



各教科等でのAさんの姿



物語教材での気持ちの理解



「気持ちカード」を想起して
課題に取り組むAさん



自立活動と各教科等の関連の整理①

道徳の授業

「気持ちカード」を使って、人物の気持ちを想像したり、自分の気持ちを表現したりする。



自立活動

「気持ちカード」を使って、気持ちを表す語彙を増やしたり、場面に合う気持ちを考え、表現したりする。



国語や算数等の各教科等

「気持ちカード」を使って、物語人物の気持ちを表現する。

「気持ちカード」を想起して、学習意欲を高める。

学習意欲につながる態度・行為を「気持ちカード」として作成する

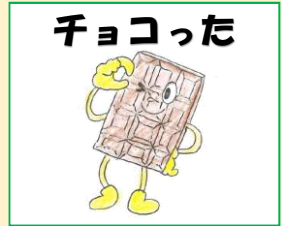


自立活動の実践②

学習参加への意欲をもつことが出来ない場面においては、その時の気持ちを伝えたり、学習に参加したりすることが難しい。



場面に合う気持ちや
解決策を考える



「気持ちカード」
の作成



自立活動の実践②

おなやみ かいけつヒーロー！



きょうの おなやみ



きょうの おなやみ



各教科等での子供の姿と自立活動での振り返り

体育

「気持ちカード」
を想起した教師と
の対話により、
学習意欲をもつこ
とができた。



自立活動の時間における振り返り



自立活動と各教科等の関連の整理②

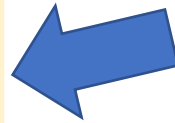
自立活動

学習意欲につながるような解決策を考え、「気持ちカード」としてまとめる。



体育

「気持ちカード」を想起させながら、自分の気持ちを伝え、教師が提示した選択肢を基に、活動への参加について意思決定する。



自立活動

「気持ちカード」を用いて、**意思決定**できたことや**達成**できた**喜び**を振り返る。



指導の記録

各教科等の指導の様子

- 体育の授業中、理由を言わず、「やりたくない」と交流学級の先生に伝えて、途中から参加しなくなった。
- これを機に体育の授業は、「出ない」と言うようになった。

- 体育の授業の活動内容やルールが分かって、活動に対して見通しがもてるようになった。少しずつ、自分から初めての活動に挑戦する姿が見られた。
- どうしていいかわからない状況で自分から先生に質問することがあった。

自立活動の指導の様子

- 体育の授業について、振り返りを行った。
- 学習活動や学習内容を視覚化した。
- 「分からない時は質問する」ことを指導して、実際の場面を想定して練習した。



自立活動の実践③

10/23(火) ② 学え「うんどう会のふりかえり」

すわってきく

① 書く時間

② 話す時間

③ ふりかえり → うんどう会でがんばったことを話す

つぎがんばる

そうやってがんばる

④ 絵をかき ♡かきたかた → 字を書く時間

⑤ 名前を書く ① がまんできなかつた

② 書くことが分からなかつた

③ 楽しむ

④ がんばる

⑤ がんばる

⑥ がんばる

⑦ がんばる

⑧ がんばる

⑨ がんばる

⑩ がんばる

⑪ がんばる

⑫ がんばる

⑬ がんばる

⑭ がんばる

⑮ がんばる

⑯ がんばる

⑰ がんばる

⑱ がんばる

⑲ がんばる

⑳ がんばる

㉑ がんばる

㉒ がんばる

㉓ がんばる

㉔ がんばる

㉕ がんばる

㉖ がんばる

㉗ がんばる

㉘ がんばる

㉙ がんばる

㉚ がんばる

㉛ がんばる

㉜ がんばる

㉝ がんばる

㉞ がんばる

㉟ がんばる

㊱ がんばる

㊲ がんばる

㊳ がんばる

㊴ がんばる

㊵ がんばる

㊶ がんばる

㊷ がんばる

㊸ がんばる

㊹ がんばる

㊺ がんばる

㊻ がんばる

㊼ がんばる

㊽ がんばる

㊾ がんばる

㊿ がんばる

- ・他の教科でも45分間の授業に参加できるようにするために話合った。初めての授業や活動の時は、**不安な気持ちが強くなること**を話してくれた。

気持ちの調整の般化



自立活動の実践④

ハッピータイムチケット

○先生に聞きに行く。
○言われたときに、すぐもどる。

○先生に聞きに行く。
○言われたときに、すぐもどる。

ハッピータイムチケット

Bさん

○先生の上にすわる。
○言われたのにもどらず、あそぶ



ハッピータイムチケット

さん

自立活動の指導内容(①、②)

[指導内容①]

活動前に内容やルールを確認したり、
視覚化したりする。

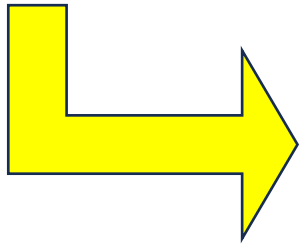
助言を受け入れて
行動調整

着席することへの
本人の意識づけ



自立活動の実践⑤

少人数での
「遊び」「制作活動」



視覚的な支援を手掛かり
にルールを守って活動

教師や友達の助言を受け
入れて活動に取り組む

自立活動の指導内容(①、②)

[指導内容①]

活動前に内容やルールを確認したり、
視覚化したりする。



気持ちカード



かいけつカード

自立活動の実践⑤

【指導内容②】

約束やがんばりたいことを決め、
感情を視覚化したカードを使って
不安を共有し、気持ちの安定を図る。

マモンガ



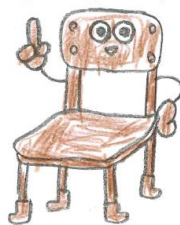
がんばるゾウ



おしえてんとう虫



すわるくん



きれいマンボウ



がまんモス



きくワン



活動のめあて

活動のふり返し

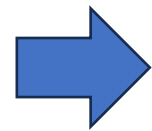


自立活動の実践⑤

かいけつカード

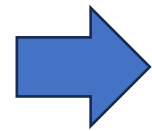


子供がネーミング



カードへの愛着，意欲

学級の共通言語



相互理解，他者評価



指導の記録

・他の教科でも 45 分間の授業に参加できるようにするために話し合った。初めての授業や活動の時は、**不安な気持ちが強くなること**を話してくれた。

・「気持ちカード」と自分の気持ちを重ねて表出できたことで、**不安な気持ちが軽減され、**前向きな発言が多くなった。

・オリジナルキャラクター入りの「気持ちカード」作りを行った。**自分の気持ちやがんばりたいことをみんなと共有し、カードを使って伝え合うことで、がんばる体験を重ねた。**



交流学級担任とAさんについての共有

- ・ 支援学級での学習では，集中の持続時間が短く途切れやすい。「かいつカード」で意識することで時間内に課題を終えることができる。

交流学級では

- 離席はあるが，声かけで行動する時間は短くなった。

- 周囲の子供からのサポートが増え，取り組めている場面もある

- ・ 交流学級で寝てしまうことがある。

（学活や音楽）

- 交流学級での様子を尋ねると，「できたよ」と参加した自覚はある。



交流学級担任と連携した「手立て」

- ・「3つの頑張ること」を事前に交流学級担任と検討し、付箋に書いたものをAさんに持たせた。

- ・「3つの頑張ること」は1時間を通した学習参加を目指し、授業の前半、中盤、後半での活動に関することを挙げるようにした。

1. 教師の説明を聞く。
2. グループで発表練習を1回行う。
3. 全体発表で発表する。

「3つの頑張ること」の付箋の例



交流学級担任と連携した「手立て」

活動の見通し



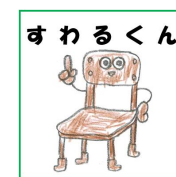
活動のめあて

活動のふり返し

かいけつカード

1. 教師の説明を聞く。
2. グループで発表練習を1回行う。
3. 全体発表で発表する。

「3つの頑張ること」の付箋の例

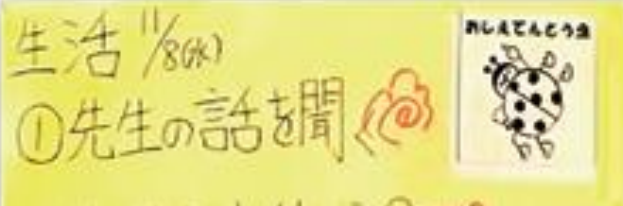


指導の記録

役立ちカード

- 授業前に特別支援学級の先生に今日の授業の活動内容を伝え、がんばるポイントを確認した。

- 付箋に「3つのがんばること」を書いた「役立ちカード」を持って授業に参加した。
- 「3つのがんばること」に対して、活動後に花丸やコメントをもらおうと嬉しそうな表情をしていた。



- 交流学級の先生から聞いた活動内容を伝え、その中から自分でがんばりたいことを3つ選んで付箋に書いた「役立ちカード」を作った。



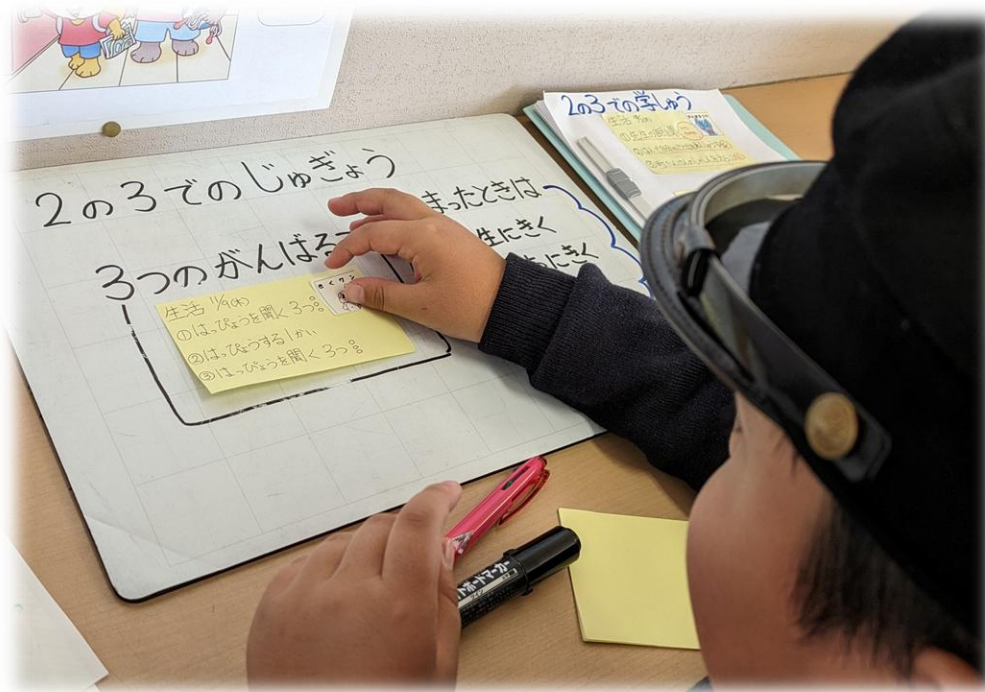
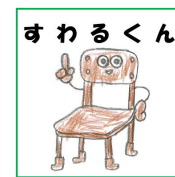
- 前向きな気持ちで取り組めるように、自分の感情を表す「気持ちカード」も一緒に貼った。



自立活動の実践⑥

活動のめあて

役立ちカード



- ①「役立ちカード」に書いてある交流学級での活動内容を見て見通しをもつ。
- ②活動の中で「頑張りたいこと」を「かいつカード」から選び,シールを「役立ちカード」に貼る。
- ③「役立ちカード」を持って,交流学級に行く。



自立活動の実践⑥

役立ちカード



交流学級では、

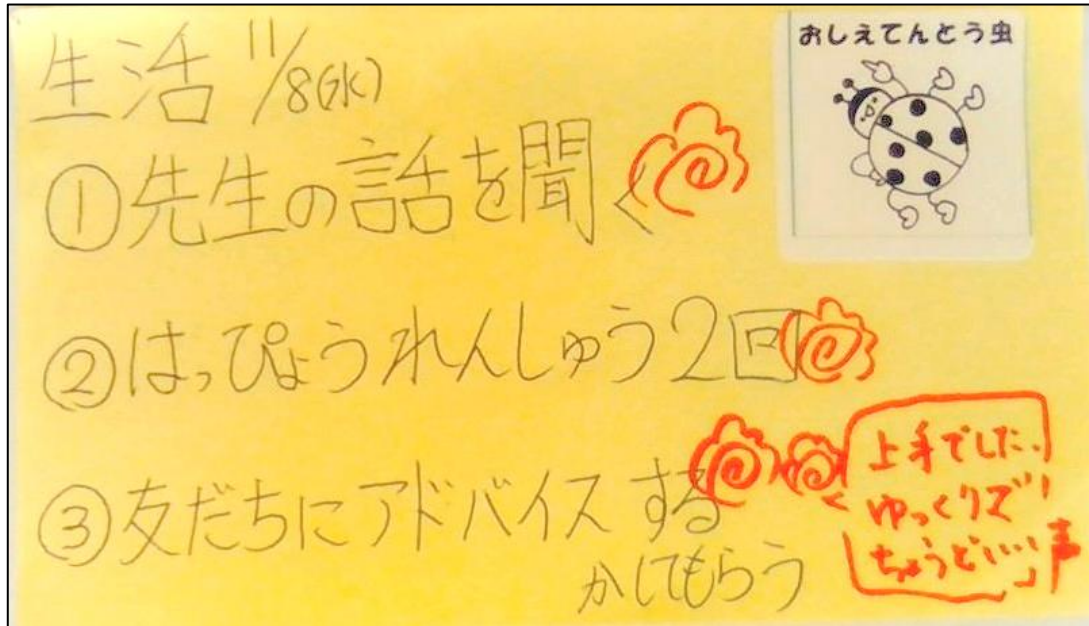
①付箋の活動が終わるタイミングで即時評価を行う。

- ・花丸やコメントなど

②Aさんと付箋を見て次の活動を確認する



役立ちカード



授業後は、
特別支援学級で付箋をもとにふり
返しを行う。

達成感
学習への意欲



「役立ちカード」の記録①

2の3での学しゅう

生活 1/2(木)

① 先生の話を聞く。 きき方
手まぜあり

② はんで自分のことばをいしゅうする。

③ 町たんけんのしゃしんをえらぶ。

がんばるソウ



生活 1/6(月)

① 先生の話を聞く。

② しゃしんをえらんで、はる。

③ だい名をつける。

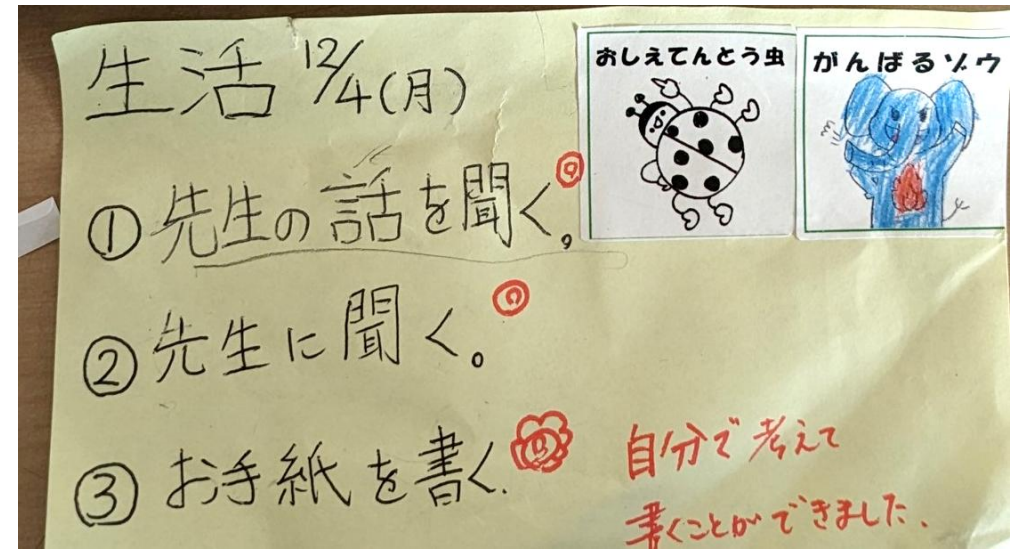
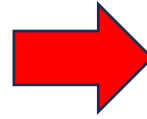
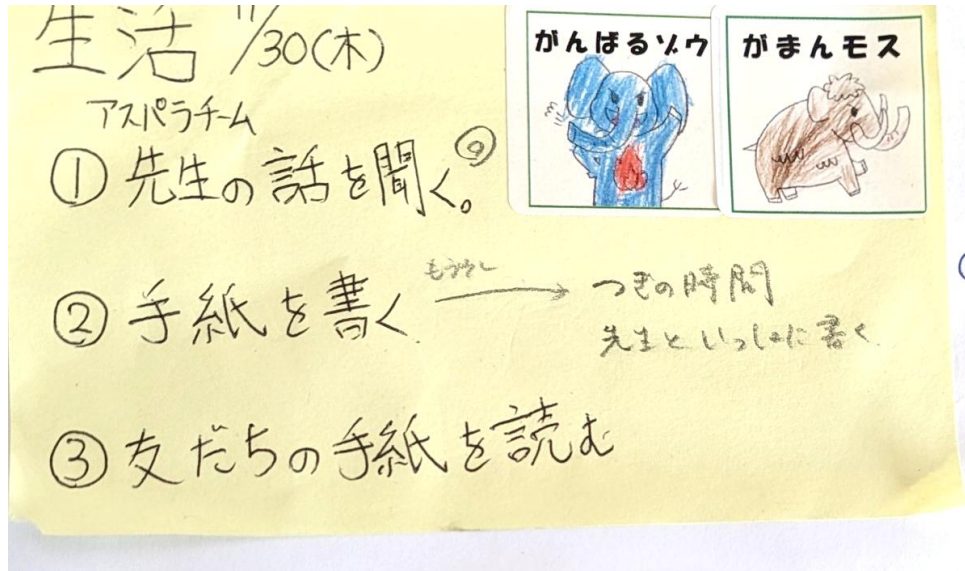
きくワン



前時の反省を生かして、次時のめあてを決定している。



「役立ちカード」の記録②



前時の活動で苦手な気持ちを担任に伝え、
次時では、苦手な活動に挑戦することができた。

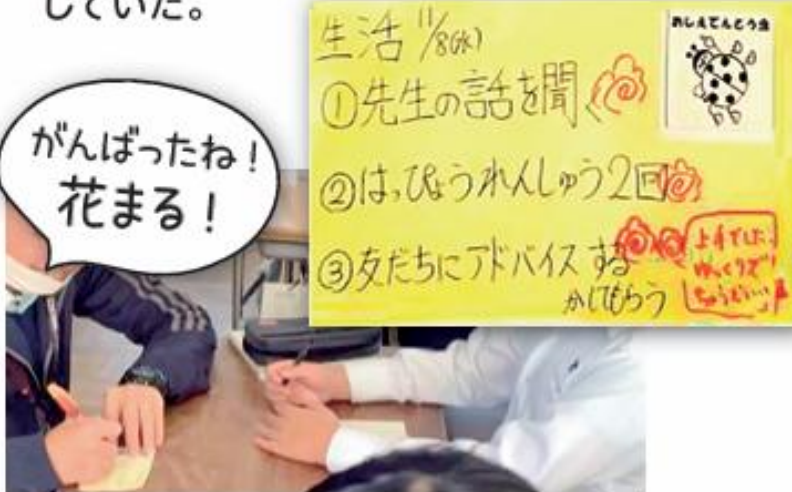


指導の記録

前向きな元気があふれていた。

- 授業前に特別支援学級の先生に今日の授業の活動内容を伝え、がんばるポイントを確認した。

- 付箋に「3つのがんばること」を書いた「役立ちカード」を持って授業に参加した。
- 「3つのがんばること」に対して、活動後に花丸やコメントをもらおうと嬉しそうな表情をしていた。



- 交流学級の先生から聞いた活動内容を伝え、その中から自分で**がんばりたいことを3つ選んで**付箋に書いた「**役立ちカード**」を作った。



- 前向きな気持ちで取り組めるように、自分の感情を表す「気持ちカード」も一緒に貼った。

- 次の授業に向けて、自分から「3つのがんばること」を決めて、「気持ちカード」を貼り、「役立ちカード」を完成させることができた。
- 「気持ちカード」を選ぶことで、自分の感情面の課題を受け止めながら、活動に参加することができるようになった。



交流学級担任との連携の効果

必要な配慮や 手立て

- ・ 見通しがもてるように内容やルールを視覚化して伝える。
- ・ 活動後、すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。

12/15(金) 学活 ほめられ
かんばるぞう

- ① あそびとルールが言えるようになる。
- ② ルールせつめいで話すところをきめる。
- ③ れんしゅうする。3回 先生の前にリハサムエングラフ！

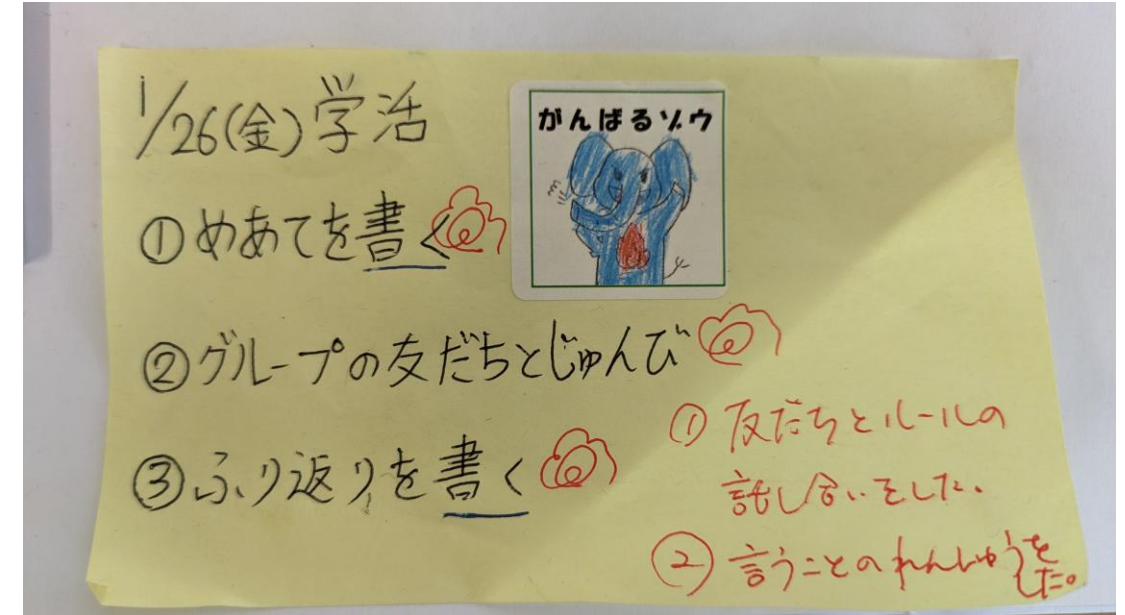


2/8(金) 学活 → 書しや

- ① あそびをきめる めろ
たからさがし
たぶんアイディアをだせ！
- ② お手本を見て書く よく見て書いていよう！
- ③ 本を読む。



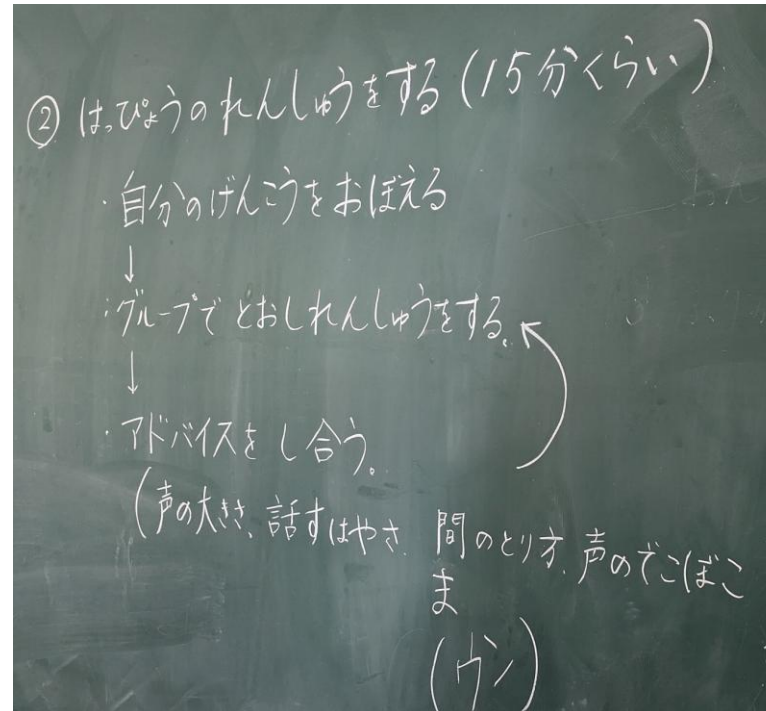
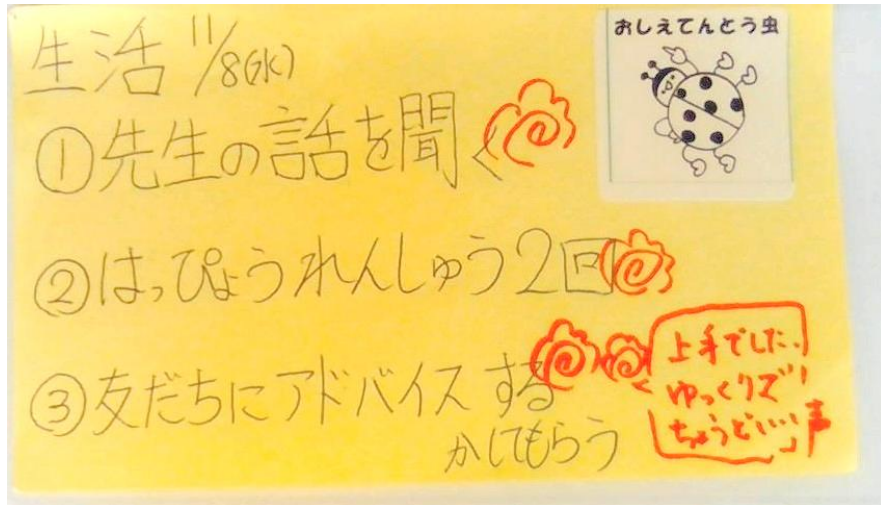
交流学級担任との連携の効果



交流学級の担任が、必要なタイミングで効果的にAさんに介入することができる。



交流学級担任との連携の効果



Aさんへの「手立て」を検討することで、学級全体への授業の
分かりやすさへとつながった。



教員間における役割を整理しましょう。

連携



交流学級の 先生の役割

自立活動で行っている学習を把握し、それを参考にして各教科等の指導で配慮をしていく。



同じ先生が自立活動の指導と各教科等の指導を担当する場合は関連を図りやすいですが、そうでない場合は、自立活動と各教科等を担当する先生の連携がより重要となります。

校内支援会議やケース会議などで情報共有をしたり、教員間でメモのやり取りをしたりなど、連携には様々な方法が考えられます。

特別支援学級の 先生の役割



各教科等での学習上または生活上の困難さを把握し、それらを改善・克服するために自立活動の指導を行う。またその自立活動の指導が、各教科等の指導に生かされているかを評価する。



特別支援学級との情報交換会（月に１度）

目的

○特別支援学級の子供について担任間で情報共有することで，特別支援学級の子供の理解を深めるとともに，授業作り，行事に向けての手立て（UDを含む）や合理的配慮を検討することで，インクルーシブ教育の推進を図る。



情報交換シート

特別支援学級との情報交換シート			
氏名		学級	年 組 (あおぞら 組)
本児について			
D : design 短期目標			
今回のテーマ			
手立ての共有	連携に向けた 単元構想	ルールの共通理解	子供の対応について
友達関係について (居場所作り)	交流学級での役割	環境整備	家庭との連携
O ₁ : Observe 現状観察	O ₂ : Orient 方針		
⇔			
A : Act 行動した結果	D : Decide 手立ての決定		
⇕			

- ①検討したい**テーマ**を選定する。
- ②交流学級担任とテーマに対する**現状**、**支援の方向性**を確認する。
- ③具体的な**手立て**(いつ、誰が、何を
する等)を検討する。
- ④実施後は**評価**を行い、手立ての
継続や変更を検討していく。



情報交換シート

テーマ

連携に向けた
単元構成

ルールの
共通理解

友達関係
について

子供の対応
について

交流学級
での役割

環境整備

家庭との連携

手立ての共有



情報交換シート

特別支援学級との情報交換シート 〇月

氏名	学級	年 組 (あおぞら 組)
実態・目標		
テーマ		
O₁ : Observe 現状観察	O₂ : Orient 方針	
A : Act 行動した結果	D : Decide 手立ての決定	

メリット

○子ども実態や,自立活動について**共通理解**を図ることができる。

○テーマを設定することで,話し合いが**焦点化**され,**効率的**である。

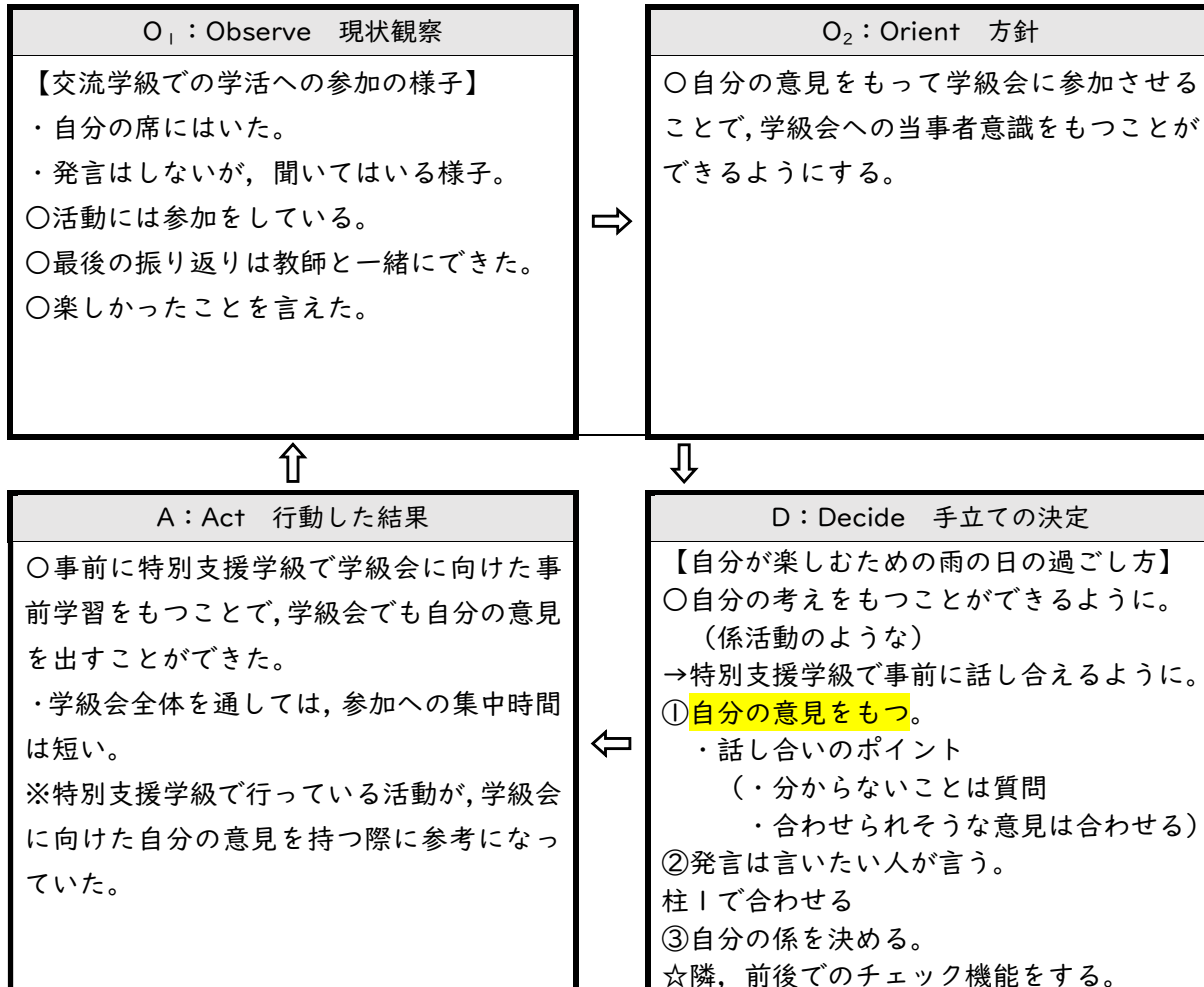


Aさんについての情報交換シート①

連携に向けた 単元構想

Aさんが学級会に参加できる
ような

- ・ 事前の活動
- ・ 学級会の流れの検討



Aさんについての情報交換シート②

O ₁ : Observe 現状観察	O ₂ : Orient 方針
○昨年度に比べて、運動会に向けて意欲的にダンス練習や応援練習に参加している。 ○交流学級の先生の声掛けや支援級での取り組みにより、応援を頑張ることを意識している。 ・支援学級での学習では、集中が切れたり、他へ興味移ったり、テンションが高くなったりすると離席が見られる。 →声をかけると席に戻り課題を続けている。 【交流学級での離席パターン】 ①他の子供につられている。 →先に離席している子を先に指導し、その後、本児を指導・支援している。 ②何をするか分からないとき。 ③終わったとき。○最近は何していいかを聞きに来る。 →言いにくいときは声をかけている。「何したい」 ④クラスがざわついているとき（鍵盤の練習など）→○練習はしている。	○運動会への意欲を交流学級での特活やその他の学習にいかしたい。 ○支援学級、交流学級での共通したルール作りや声掛けを行っていくことで落ちついて学習できるようにする。
↑	↓
A : Act 行動した結果	D : Decide 手立ての決定
○自分から聞きに来ることは少ないが、周囲の子供から声をかけてもらうことが増え、行動を調整する場面が見られる。 ○②③により、離席が減っている。 ○課題に取りめない子供が自分から聞きにきたり、不要な離席をする子供が減ったりと、交流学級の子供へもよい影響が見られる。	交流級での手立て ①声掛けのタイミング ・体育など、全体の活動が始まっているときは、本児から聞きに来るのを待つ。 ・書く活動など席について取り組むものに関しては、先に声をかける。 ②全体説明の際に、「分からないときは、先生に来なさい」と指示をする。（聞きにきたい人の確認も行う）→離席のルールにつながる。（周囲の子供へも） ③隣同士など子供同士での確認行わせる。 ○支援学級では「いつ聞きにきてよいか」のルールをその都度確認する。

子供の対応
について

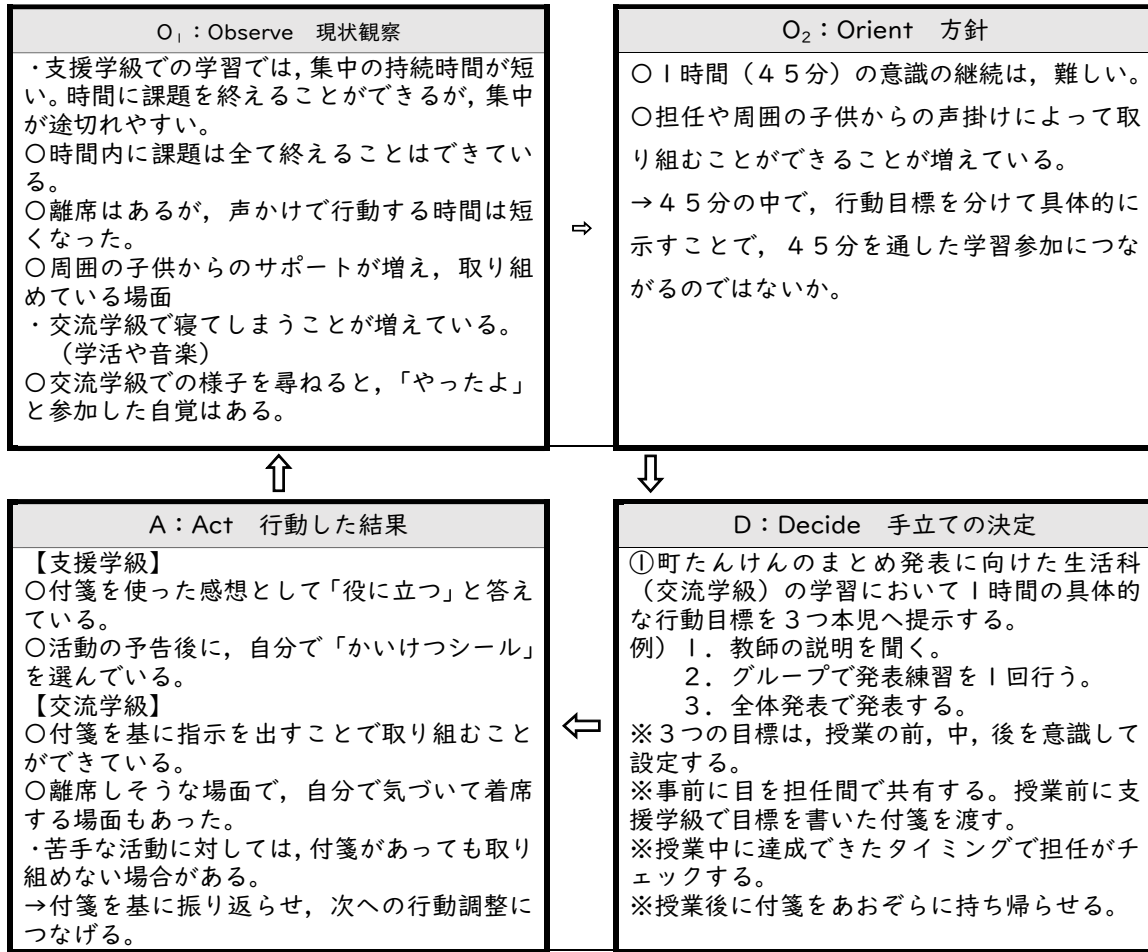
ルールの
共通理解

Aさんへの声かけのタイミング

学級全体のルール作り



Aさんについての情報交換シート③



手立ての
共有

連携に向け
た単元構想

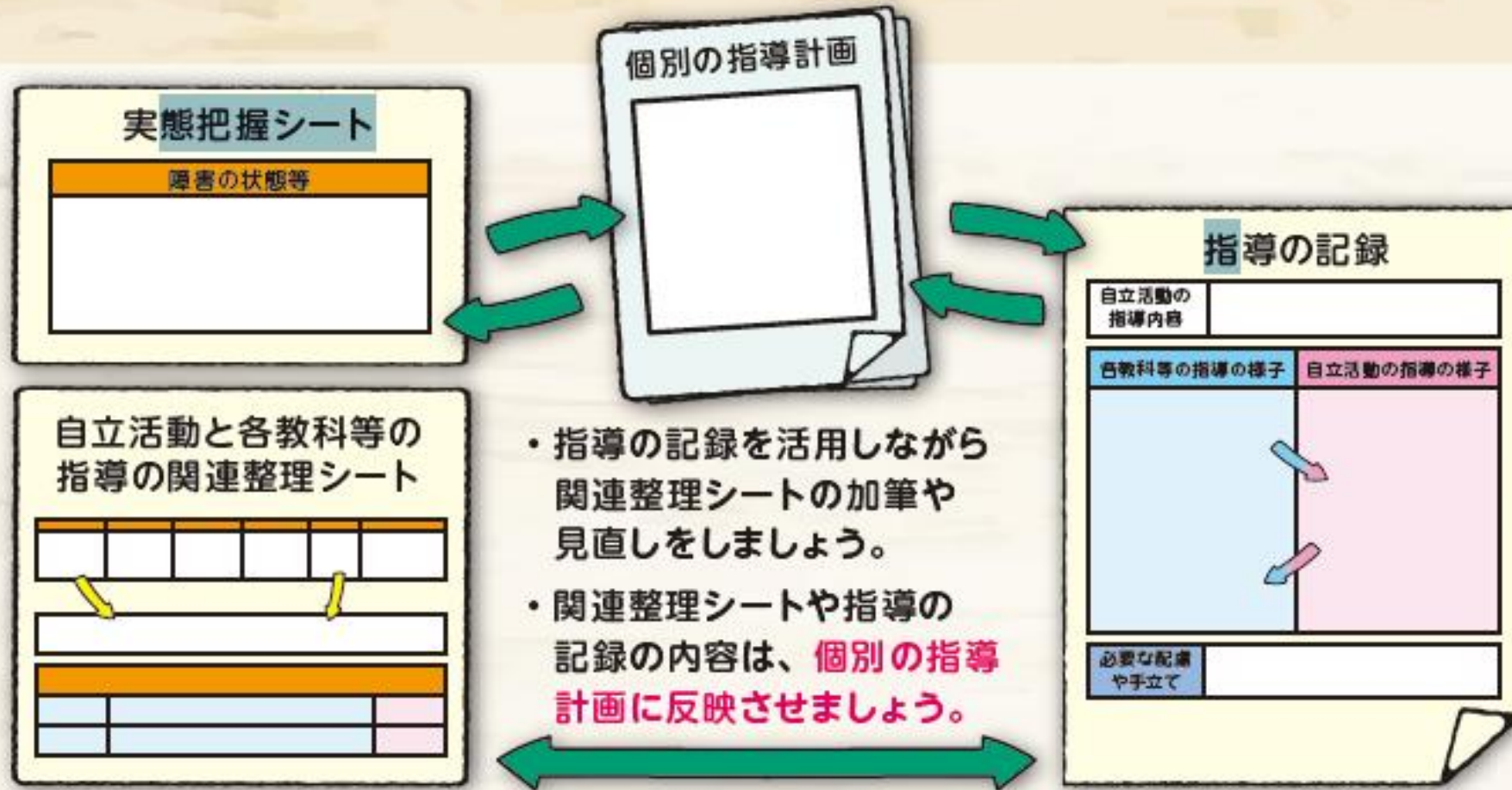
生活科でのAさんの学習参加に
向けた検討



役立ちカード



連携を図る上で、個別の指導計画を活用しましょう。



素敵な子ども達
との出会いに感謝

